

えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

交通安全運動に一役、交通安全作文コンクールで、すばらしい作品、大会で発表 (えりも町交通安全運動推進委員会主催)

えりも町福祉センターで、3月2日、第45回えりも町交通安全住民大会が開かれました。

その場で、各学校から選ばれ「交通安全作文コンクール」に応募のあった39作品のうち、特選4名の作文が発表されました。

特選と入選作品は次のとおりです。

小学5年生の部 (敬称省略)

- 特選 小松紗菜 (庶野小)
- 入選 田中美瑛紀 (東洋小)
- 入選 北村勇斗 (えりも岬小)

小学6年生の部

- 特選 鎌田愛美 (えりも岬小)
- 入選 田内萌子 (笛舞小)
- 入選 大場結菜 (えりも小)
- 入選 村田帆乃輝 (えりも岬小)

中学生の部

- 特選 大坂 陽 (えりも中3年)
- 入選 石田 宙 (えりも中2年)
- 入選 能登朝子 (えりも中2年)

高校生の部

- 特選 根井あずさ (えりも高3年)
- 入選 吾田佳穂 (えりも高3年)

特選 小学5年生の部 小松紗菜さんの作文

「危険な信号無視」

私は、信号無視は絶対にしてはいけないと思います。

なぜなら、信号無視は、すごく危険だからです。資料3のように、信号を無視したことによって亡くなる人がいるので、信号をきちんと見ないとだめだと思います。

もちろんですが、歩行者もルールを守らないといけないと思います。

2～3年ほど前、家族と車に乗って出かけた時、4歳くらいの子供二人が飛び出してきました。

「あぶない！」

お父さんが急いでブレーキをかけたので、その子供も私達もケガをしなかったので、ほっとしました。けれど、もし、ブレーキをかけていなかったら、きっと、大事故になってしまっていたと思います。

私は、今まで、あまり信号などに関心がありませんでした。でも資料を見て、信号は事故を減らす大切な物だと気づきました。それと同時に、事故で大事な人を亡くし、悲しむ人が日本にたくさんいるということがわかりました。

どうして事故は、こんなにたくさん起こるのでしょう。信号無視などで事故を起こした人は、人の命の重さを分かっていないと私は思います。

人の命は、お金よりも何よりも重たいことを知っているにもかかわらず、信号無視などをしようとする人を私は許しません。悪いことだと知っていて事故を起こし、そして人を

死なせてしまったら、その人は十年経っても百年経っても、許されるわけではないと私は思います。

※ 資料3は、『もう一度会いたい』遺族の手記
岡 静子さん

学校力向上事業の教育講演会 前道教委学校教育局次長 菅沼 肇氏



2月24日、えりも小学校を会場に「学校力向上事業」の一貫として講演会が開かれました。講師には、前北海道教育庁学校教育局次長で、現在、道立旭川美術館長の菅沼 肇氏を招き、町内の小・中・高校の先生方80名が一堂に集まり、熱心に耳を傾けていました。

菅沼先生は、現在、学校力向上のコーディネーターとして道内各地を回られています。

当日、午前中は全学校を視察いただき、午後3時30分からは『学校力を高める授業観の育成』と題して、①学びの基底 ②子どもの腑に落ちる授業の挑戦 ③9年間で学びを考える などの内容について具体的にお話いただきました。「先生方が情熱をもって教材研究を行って子どもに向かえば、必ずその熱意が伝わり、意欲的に学ぶ心が育つ」と熱く語ったことが大変印象的で心打たれました。

えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

特選 小学6年生の部 鎌田愛美さんの作文

「安心を約束する運転を」

みなさんは、車に乗っていて恐怖を感じたことはありませんか。きっと誰もが一度は感じたことがあると思います。私も母が運転する車に乗っていて、恐怖を感じたことがあります。それは、走行している時、大きなトラックが左右をよく見ないでいきなり道路に出てきたことです。あと少しブレーキが遅ければぶつかっていたかもしれません。きっと相手の運転手さんは安全に気をつけていなかったのでしょうか。安全に気をつけていれば、誰も危険な目にはあわないはずですよ。

そこで、私はみんなが安心だと思える事故のない運転について考えてみました。私が考えたのは次のことです。

1、互いに気をつける

ニュースで多くの人たちが車やトラックにひかれて亡くなっていることをいつも耳にしています。その多くの原因はスピードの出し過ぎや相手を意識しない運転です。しかし、事故は、車側のミスだけでなく、歩行者など車を運転していない人たち側に原因があることも多くあります。もし、車を運転する人が「もしかしたら人の飛び出しがあるかも」と

か、「ここは以前事故があった所だから注意しよう」と心がけていたら、もっと事故は少なくなるはずです。また、歩行者側も「車が来るかもしれない」から、「飛び出しは危険だ」といつも心がけておけば、さらに事故は減ると思います。事故が起きることで、被害者だけでなく、運転手やその家族など多くの人が心に傷を持ちます。だから、お互いに気をつけ、お互いのことを気づかうことがとても大切だと思います。

2、飲酒運転をしない

今年の7月13日、小樽飲酒運転ひき逃げ事故がありました。この事故で4人の女性がね飛ばされ、そのうちの3人が死亡、1人が重傷を負いました。原因は加害者の男性による飲酒運転です。飲酒運転は人々を危険にさらすルール違反行動で、本来なら避けられる事故です。飛び出しなどの一般の交通事故とは違い、飲酒運転での事故に対しての怒りや悲しみはとても大きなものに違いありません。この事故で残された女性は大切な友人を失った悲しみと、「自分だけ残ってしまっただけなのか」「自分が生きる意味はあるのか」と自分を責め立て苦しんでいるはずですよ。ではなぜ、危険だと分かっているのに飲酒運転をするのでしょうか。それは、「自分が事故を起こすなんてありえない」と誰もが思っているからだと考えます。事故はそのような気持ちから起こってしまうのです。ですから、みなさんには事故で苦しんでいる方たちのつらい気持ちをよく考えてほしいのです。

私は、交通事故を減らすために一番大切なことは相手の気持ちを考えることだと思います。いろいろな人の立場になってその人の悲

しみを心から感じる事ができれば自然と行動となり、町のみんなが安心できることにつながると思います。ですから、みなさんも相手の立場になって交通安全について考えてみてはどうでしょうか。

全作品を読んで感じたこと

どの作品も交通安全大会にふさわしいものであり、思い、願いが伝わってきました。また、字がとても丁寧できれいであり、先生方が日頃から教科等できめ細かな指導を行っている証しであると感じ、とても嬉しく思ったところです。(紙面の都合上、小学校の部の特選2作品のみを掲載します。)

7回目の生徒指導の話合い

2月20日に、本年度7回目の町生徒指導連絡協議会定例会が役場3階で開かれました。

今回は、前段で2回目となる「四者(幼・保、小、中、高)合同研究協議会」が開かれ、『幼保から小学校へ要望したいことや四者連携について望むこと』などについて話し合いました。

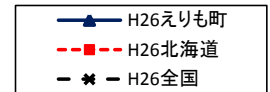
特に一日入学の感想、箸の指導、姿勢、心配な子への配慮、自尊心感情、社会性等の様子を交流しました。



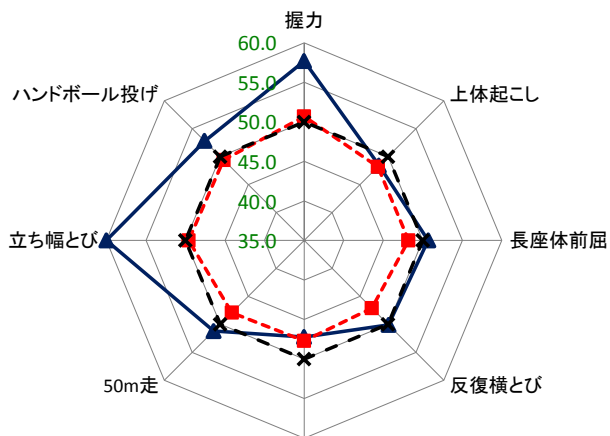
■ えりも町内中学校の状況及び体力向上策(学校数:1校、生徒数37名)

【各種目の状況】

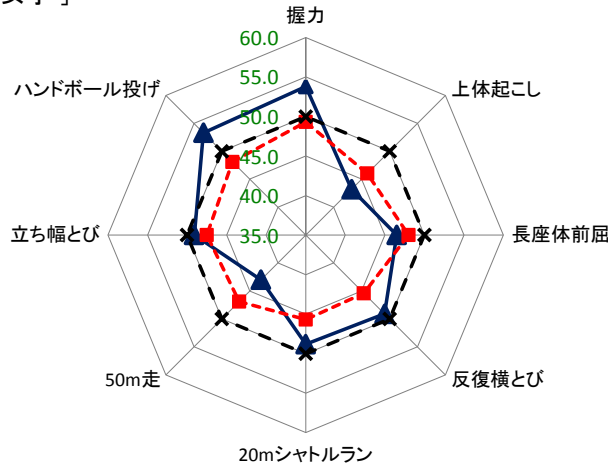
全国を50とした時の偏差値(T得点)をレーダーチャートで表示



[男子]

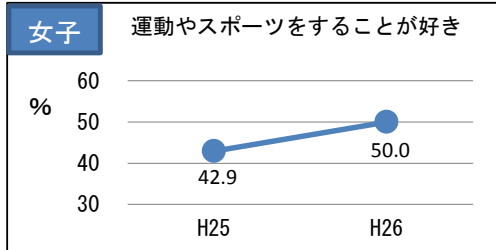
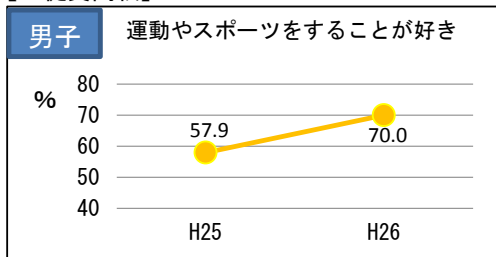


[女子]

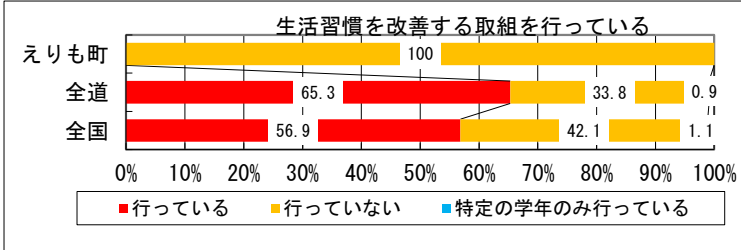
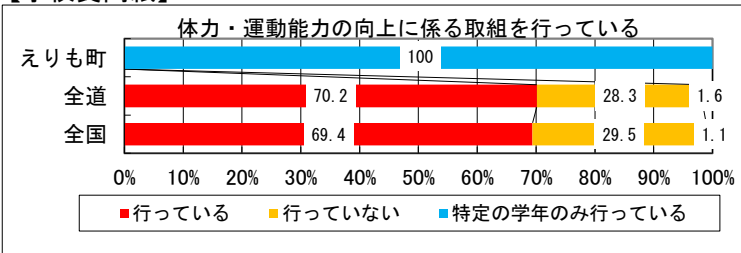


【生徒質問紙】

20mシャトルラン



【学校質問紙】



【分析】

実技	・実技種目では、男子で「握力」、「長座体前屈」、「反復横とび」、「50m走」、「立ち幅とび」、「ハンドボール投げ」の6種目、女子で「握力」、「ハンドボール投げ」の2種目が全国平均を上回った
生徒質問紙	・「運動やスポーツをすることが好き」と回答した生徒の割合は、昨年度と比較して男子で12.1ポイント、女子で7.1ポイント増加した
学校質問紙	・「体力・運動能力の向上に係る取組」、「生活習慣を改善する取組」について、学校全体で取り組む必要がある

【えりも町の体力向上策】

- ◎ 「体力向上プラン」に基づいた「1校1実践」の取組
- ◎ 中・高が一体となって調査を行い、新体力テストの結果を授業で活用するなど、保健体育科の取組
- ◎ 新体力テストや体育大会記録会の結果を基にした全校的な取組や部活動での一層の工夫(今後の課題)
- ◎ 家庭や地域との連携を図った生活習慣や運動習慣を身に付ける活動の充実(今後の課題)